

ETAJIMA GoON! Vol.61

NPO 法人ワンシード 理事

おざき ともこ
尾崎 智子 さん

【法人紹介】

ONE SEED makes whole earth green.
「ひと粒の種が地球全体を緑にすることができ
るように、一人ひとりが開花することで、世
界は豊かで平和になる。」との考えのもと、こ
どもの居場所づくりや教育相談、環境保全活動
を行う。

きれいな自然があれば生きていける。

カラフルなお花の絵が描かれた門扉から、ここだとすぐわかる「オハナヴィレッジ」は、NPO法人ワンシードの活動拠点で、どこか心落ち着く雰囲気を感じた。花が咲き、これらを生かした活動を今後予定しています。「優しい口調で楽しそうに話す尾崎智子さんは、江田島の自然を感じてもらいながら自分自身に向き合う機会やこどもの教育に関する活動を行う。

「ひと粒の種が地球全体を緑にすることができるよう、一人ひとりが開花することで、世界は豊かで平和になる。」と考え、こどもたちの居場所づくりや保護者の教育相談などを行っている。「法人設立のきっかけは東日本大震災でした。」と語るように、尾崎さんにとって大きなターニングポイントとなった。東京に長く住んでいたし、震災当時関東にいた知人から多く連絡があった。「暮らしを見直すきっかけになりました。」当時は社会が不安定で、今いる場所に住み続けることもできるかわからない、そん

現在では教育に力を入れている。現行および新学習指導要領ではSEL教育（社会性と情動の学習）が注目されている。自分自身や他者との関わり方を学びながら効果的に感情を理解し、よりよい人間関係



当初は広島市内の一室で、英語と組み合わせたことも向けマインドフルネスを行っていた。学校で心の参観日に授業をしたり、メンタルヘルスの相談を受けたりもした。令和4年から現在のオハナヴィレッジに活動拠点を移し、江田島の自然を感じてもらう活動を行っている。

な時だからこそ自分自身の考えや暮らし方を見直した。「きれいな自然があれば生きていける」その考えが法人設立につながった。

こどもという可能性を秘めた種は、自分の本質に気づき、花としてキレイに咲く。様々な花はどれを見て輝き、花畑は人々を魅了する。こういったことを考えると、オハナヴィレッジの花畑も今からどんな花が咲くのか楽しみが膨らむ。



係を築いて意思決定をする力を育てる。学校に行きたくても行けないこどもたちの受け皿として活動する中で、教育現場で「心の学習」が必要と説く。実際に尾崎さんも学校へ赴き、先生方や生徒たちと心の在り方と自分自身の気づきを共に考える時間を作っている。多様な価値観や文化を受け入れ、共通の人間性を理解すること、誰もが共生できる社会となっていく。

法人
紹介

NPO 法人ワンシード



HP



Instagram

所 江田島市大柿町大原 1393

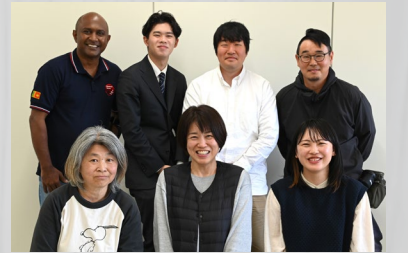
つむぐ通信

シリーズ連載 その124

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。

【江田島市地域おこし協力隊】
観光事業総合プランナー 山田 京子
オリーブブランドクリエイター 鉄増 千夏
里海コーディネーター 向井 綾香
プロモーション推進員 西尾 国弥
沖まちづくり協力隊 前谷 圭祐
大柿高等学校活性化コーディネーター 前田 脩人

今月は
前谷 圭祐 さん



Instagramで情報を発信しています

江田島市地域おこし協力隊



沖地区の地域課題解決・魅力を伝える
4月から地域おこし協力隊「沖まちづくり協力隊」として活動している前谷圭祐です。沖美町の沖地区で地域課題の調査と課題解決に向けての立案・遂行、沖まちづくり協議会の取組サポートを行っています。

地域おこし協力隊着任前の活動
北海道登別市出身でプログラマーや接客業、産廃業者で重機オペレーターと水処理施設担当、営業事務、共同生活援助の支援員をやっていました。令和7年8月中旬に広島市内で便利屋をしている友人から勧誘されて広島県広島市に移住し、友人の便利屋の手伝いをしていました。移住後に知り合った方が竹原市仁賀町で経営している屋外サウナやその周辺で連根農家をしている方の手伝い、レモンケーキ製造をしている方とところで製造の手伝いなどをしていました。

なぜ江田島市の地域おこし協力隊になったのか
広島県へ移住勧誘の際に「いろいろな知識あるのにもったいない！自然が好きなら江田島市の地域おこし協力隊が合っていると思う！」と言われ、引越した後何度か江田島市を訪れた際に島の魅力に惹かれたことがきっかけで地域おこし協力隊になることを決めました。

これからについて
この沖地区をより住みやすい地区にする、若い方々が移住先として選んでくれるようにするために地域の方々やコミュニティ、沖まちづくり協議会と連携していきたいです。そのためにも沖地区の魅力や島外へ発信、沖地区へ足を運んでいただけるようにするための立案、地域の方々や移住者の方々の架け橋となる存在になれたらと思います。

着任してからの活動について
一番大きな動きをしていたのは「沖たすけあい交通」の再開に携わったことです。

「沖たすけあい交通」は令和7年11月、令和8年1月の3か月間無償で行っていた地域住民のボランティアドライバーがマイカーで移動困難者を無料送迎する地域内交通の実証実験です。今回は8月4日、令和9年1月31日まで有償（チケット制）にて開始しました。運行前準備段階ではチラシや説明資料、チケット作成をメインに担当していました。運行期間中はチケット在庫管理や集金もそうですが、利用データ管理や運行課題をまとめるなど今後、継続して運行できるようにしていきたいと考えています。

8月15日に開催された「沖盆踊り」



にも携わらせていただきました。櫓組みやテント、出店の手伝いなど地域の皆さま方と連携して行いました。「沖盆踊り保存会」という沖美の盆踊りを残していくために結成された団体があり、盆踊りを学びたい方が練習を行ったりしていますが、この少子高齢化の影響もあり受け継ぐ方が少ない問題があります。

地域おこし協力隊としてこの文化をデジタル化や冊子にする、広めていくために何が必要かを模索しつつ、文化を残していくことにも力を入れていきたいと考えています。

これから沖まちづくり協議会の皆様方と11月1日(日)に開催される「オリーブミュージアム」に向けて動いていきます。ぜひ皆様方に来ていただき、楽しみながらこの沖地区を応援していただけたらと思います。